

平成 2 2 年度畜産物価格及び関連対策
関係資料

- 1 これまでの政策会議や団体要請における主な意見など . . . 1

- 2 副大臣及び政務官による現地調査の概要 . . . 5

- (参考) 畜産・酪農をめぐる情勢 . . . 15

平成 2 2 年 2 月
農林水産省生産局畜産部

これまでの政策会議や団体要請における主な意見など

1 畜産物価格等

(1) 加工原料乳生産者補給金単価及び限度数量

- 補給金制度の維持及び十分な財源確保 [団体要請]
- 補給金単価及び限度数量の維持又は現行以上の水準 [政策会議]
- 生産者が一番求めているのは乳価の安定 [政策会議]
- 生産費の算定が大規模農家に偏らないような工夫が必要 [政策会議]

(2) 牛肉及び豚肉の安定価格

- 牛肉及び豚肉の安定基準価格の適切な決定又は現行以上の水準 [団体要請]

(3) 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

- 適正な保証基準価格等の決定 [団体要請]

(4) 鶏卵価格安定対策事業の補てん基準価格

- 卵価安定基金財源の確保及び基金制度の全面的な見直し [団体要請]

2 関連対策

(1) 酪農関係

- 生産者による国産生乳と輸入調製品等との置き換えのための取組に対する支援 [団体要請]
- 食育を始めとする牛乳乳製品の消費拡大対策の継続 [団体要請]
- 生産者組織による緊急的な牛乳消費拡大活動や、酪農家による消費者との交流活動に対する支援 [団体要請]
- 酪農ヘルパーの支援対策の継続（要員の確保や傷病時の利用支援等） [団体要請]
- 都府県の加工処理工場の再整備に対する支援 [団体要請]

(2) 肉用牛関係

- マルキンなどの現行補償水準の確保 [政策会議]
- マルキン及び補完マルキンの継続 [政策会議、団体要請]
- 補完マルキンの補てん割合の引き上げ（6割を8割に） [政策会議]

- 畜産経営安定対策の仕組みの簡素化 [政策会議]
- 畜産経営安定対策は収入保険方式が適当ではないか [政策会議]
- 肉用牛ヘルパーに対する支援の措置 [政策会議]
- 生産者による販売ルートの開発対策及び輸出の促進対策の継続・充実 [政策会議、団体要請]
- 肉用牛流通安定対策（肉用牛預託）の継続・充実 [団体要請]

（３）養豚・養鶏関係

- 豚肉の卸売価格が全国保証価格を下回った場合に、その差額を補てんする全国養豚経営安定基金制度（仮称）の創設 [団体要請]
- 調整保管が恒久的であれば役割を果たしていないということにならないか [政策会議]
- 豚肉価格の先行きに対する生産者の不安増大 [政策会議]
- 経営安定対策による補てんにおける国産飼料利用の要件化 [政策会議]
- 畜産経営安定対策の仕組みの簡素化 [政策会議]
- 畜産経営安定対策は収入保険方式が適当ではないか [政策会議]
- 卵価安定基金財源の確保及び基金制度の全面的な見直し、ならびに、養鶏生産者による自主的かつ主体的な運営となる統括的な全国生産者組織の制度的創設 [団体要請]

（４）飼料・環境対策関係

- 国産粗飼料の流通体制整備、TMRセンターやコントラクターの安定的な運営等に係る支援の強化 [団体要請]
- 自給飼料の生産・調製、保管、給餌等に要する機械のリース対策の継続・充実 [団体要請]
- 土地改良や飼料基盤の整備に必要な予算の確保 [政策会議]
- 畜産農家に対する国産飼料利用のインセンティブ付与 [政策会議]
- 稲発酵粗飼料、飼料用米、エコフィード及び混合飼料の生産・利用対策の継続・充実 [団体要請]
- 都府県の未利用地・耕作放棄地などの利用を推進するための支援 [団体要請]
- 飼料用麦をとうもろこしと同レベルに養鶏用飼料として利用可能な仕組みの確立 [団体要請]
- 酪農飼料基盤推進事業の継続 [団体要請]

- たい肥化施設の継続的な整備（更新を含む）と、たい肥の流通体制の整備に対する支援〔団体要請〕

（５）資金関係

- 畜産関係の金融対策の充実〔政策会議〕
- 長期・低利の制度資金（飼料購入、負債借換等）の融資の継続・充実〔団体要請〕

３ その他

- 所得補償制度の導入に当たっては、畜産・酪農対策の見通し・ビジョンを示すべき〔政策会議〕
- 酪農・畜産への所得補償制度の導入に当たっては、現行制度からの円滑な移行のための相当な準備期間が必要〔団体要請〕
- 財源となる農畜産業振興機構の資金残高がかなり減っていると思うが、知恵を出していくべき〔政策会議〕
- 配合飼料価格安定制度は抜本的に見直すべき〔政策会議〕

山田農林水産副大臣 現地調査（長崎県下及び熊本県下）の概要

1 日 程：平成22年2月4日（木）～5日（金）

2 調査先：長崎県及び熊本県

3 視察先概要：以下のとおり

○ 長崎県下

（1）坂口牧場（雲仙市：肉用牛経営（哺育～肥育））

- ①労働力 4名（本人、妻、両親）
- ②飼養頭数 580頭（黒毛和種33頭、交雑種547頭）
- ③年間出荷頭数 （平成21年1月～12月）
（すべて交雑種）282頭
うち去勢 223頭
めす 59頭

（2）宮本牧場（雲仙市：酪農経営）

- ①労働力 4名（本人、妻、後継者、常雇1名）
- ②飼養頭数 180頭（経産牛110頭、育成牛等70頭）
- ③年間出荷乳量 1,053トン（平成20年度）

○ 熊本県下

（3）松井牧場（玉名市：肉用牛経営（繁殖、肥育一貫））

- ①労働力 2名（本人、父）、臨時雇用1名
- ②飼養頭数 195頭（黒毛和種106頭、褐毛和種89頭）
- ③年間出荷頭数 （平成21年1月～12月）
93頭（黒毛和種25頭、褐毛和種68頭）

（4）糸岡牧場（菊池市：肉用牛経営（肥育））

- ①労働力 2名（本人、妻）
- ②飼養頭数 268頭（黒毛和種98頭、交雑種170頭）
- ③年間出荷頭数 （平成21年1月～12月）
159頭（黒毛和種7頭、交雑種152頭）

4 意見交換会概要

①場 所 諫早市

②先方出席者 酪農家、肉用牛農家、養豚農家、長崎県ほか

③概 要

- ア 酪 農
- ・ 加工原料乳生産者補給金制度を継続して欲しい。
 - ・ 酪農ヘルパーへの支援を継続して欲しい。
- イ 肉用牛
- ・ 保証基準価格（31万円）を実際の生産費を上回る価格に引上げるか、生産原価と販売価格の差額を埋めて欲しい。
 - ・ マルキン制度（マルキン、補完マルキン）を22年度も継続して欲しい
 - ・ 安定した休みと、担い手確保の対策として、肉用牛ヘルパーへ助成して欲しい。
- ウ 養 豚
- ・ 所得補償制度やセーフティーネット措置を構築して欲しい。
 - ・ 長崎県については、枝肉価格360円/kgに対して、生産費は450円/kgであり、借金経営。また、枝肉販売価格から輸送コスト（20円/kg）が差し引かれるので、これらの地域の事情を各種補償価格に反映させる仕組みを構築して欲しい。
- エ 飼 料
- ・ 配合飼料価格が高止まりしていても効果がある配合飼料価格安定制度にして欲しい。（養豚）
 - ・ 飼料用米を雌牛に給与した場合、発情や消化器へ影響するので、活用するための研究を進めて欲しい。（酪農）
 - ・ 稲の利用は、耕種農家と畜産農家のマッチングが必要。（酪農）
 - ・ 酪農で稲を使う場合、穀物とワラが利用できるWCSが一番良い。（酪農）
 - ・ 食用米が14千円/俵より下がれば、WCSより飼料用米を作るほうが有利。（酪農）
 - ・ 飼料用米を使いたいが、貯蔵施設、粉碎機、収穫機等の整備が必要。（養豚）
 - ・ 飼料自給率向上のためにも、水田利活用自給率向上事業を長期間継続して欲しい。（酪農）

郡司農林水産副大臣 現地調査（茨城県下）の概要

1 日 程：平成22年2月8日（月）

2 調査先：茨城県

3 概 要：以下のとおり

（1）（有）パイオニアファーム（小美玉市：酪農経営）

- ①労働力 13名（本人、長男、三女、従業員10名）
- ②飼養頭数 800頭（経産牛550頭、育成牛250頭）
- ③生産出荷量 年間乳量 約4,800トン、
経産牛1頭当たり年間約8,700kg

（2）橋本畜産（株）（茨城町：肉用牛経営）

- ①労働力 11名（従業員）
- ②飼養頭数 1,800頭（黒毛和種肥育牛）
- ③生産出荷量 年間出荷頭数 約1,100頭
このうち年間800頭を常陸牛として出荷

（3）（株）和家養豚場（茨城町：養豚経営）

- ①労働力 8名（本人、父母、妻、従業員4名）
- ②飼養頭数 2,770頭（母豚270頭、肥育豚2,500頭）
- ③生産出荷量 年間出荷頭数 約5,000頭

（4）意見交換会

- ①場 所 水戸市
- ②先方出席者 酪農家、肉用牛肥育農家、養豚農家、茨城県ほか
- ③概 要
 - ア 酪 農
 - ・ 加工原料乳生産者補給金制度を維持して欲しい。
 - ・ 牛乳・乳製品の需要低迷に対する支援をお願いしたい。
 - ・ 酪農ヘルパーへの支援を継続して欲しい。
 - ・ 生乳の計画生産については、農家のモチベーションが下がらないよう、慎重に検討して欲しい。
 - イ 肉用牛
 - ・ マルキン及び補完マルキンを継続して欲しい。
 - ・ 肉用子牛生産者補給金制度の保証基準価格（黒毛和種31万円）を、生産費を賄える水準にまで引き上げてほしい。
 - ・ 肉用子牛資質向上緊急支援事業と子牛生産拡大奨励事業の交付

基準が複雑。

- ウ 養 豚
 - ・ 豚枝肉価格が現在のような400円/kg程度の水準だと、生産費割れの赤字経営が続き、資金も借りられないため、500円/kgまで相場が回復するような政策を講じて欲しい。
 - ・ 肉豚価格差補てん緊急支援対策事業の加入率向上のためにも、対策を充実させて欲しい。
 - ・ 豚肉の輸出も視野に、新たなチャレンジに向けた取組を支援するような施策をお願いしたい。

- エ 飼 料
 - ・ 稲発酵粗飼料に対する補助金を維持して欲しい。(酪農)
 - ・ 飼料用米の生産農家に対する手厚い支援や、飼料用米を給与した畜産物を販売する者にもメリットのある仕組みを構築して欲しい。(養豚)
 - ・ 育成牛確保のため、預託放牧に対する補助を行って欲しい。(酪農)

佐々木農林水産大臣政務官 現地調査（北海道下）の概要

1 日 程：平成22年2月8日（月）～9日（火）

2 調査先：北海道

3 概 要：以下のとおり

（1）（有）デイリーサポート士別（士別市：TMRセンター）

- ①労働力 酪農家23戸
- ②飼養頭数 2,230頭（経産牛1,400頭、育成牛830頭）
- ③生産出荷量 TMR供給実績 29,016トン
年間乳量 約12,400トン

（2）（株）大阪畜産（旭川市：養豚及び肉用牛（肥育）経営）

- ①労働力 21名（親族2名、従業員17名、アルバイト2名）
- ②飼養頭数 豚 7,706頭（肥育4,120頭、子豚2,637頭、
種雄豚52頭、種雌豚897頭）
牛 750頭（交雑種150頭、乳用種600頭）
- ③生産出荷量 年間出荷頭数 豚 15,037頭
牛 500頭

（3）本間牧場（足寄町：酪農経営）

- ①労働力 3名（経営主、妻、研修生）
- ②飼養頭数 102頭（経産牛61頭、育成牛41頭）
- ③生産出荷量 年間乳量 373トン

（4）（有）鶴翔（鶴居村：酪農経営）

- ①労働力 17名（構成員8名、雇用9名）
- ②飼養頭数 704頭（経産牛469頭、育成牛235頭）
- ③生産出荷量 年間乳量 4,307トン

（5）意見交換会

- ①場 所 旭川市
- ②先方出席者 上川管内の酪農家、北海道ほか
- ③概 要
ア 酪 農 ・ 加工原料乳生産生産者補給金については、限度数量、補給金単価を維持して欲しい。

- ・ 牛乳・乳製品の需要低迷に対する支援をお願いしたい。
- ・ 都市部だけでなく、農村部でも消費者は酪農現場を知らない。消費者教育が重要。
- ・ 酪農ヘルパーへの支援を継続して欲しい。
- ・ 需給は厳しいが、生乳の計画生産は21年度並みとして欲しい。その上で、手取りが前年を下回らないような対策を構築して欲しい。
- ・ 牛白血病が増加しているので、さらに拡大する前に対応願いたい。
- ・ 育種は国の役割。乳牛改良を進めるため、牛群検定、受精卵事業の充実を願いたい。
- ・ 限界集落が目前で地域の維持がどうなるのか心配。家族経営が残れるような政策をお願いしたい。

イ 肉用牛

- ・ マルキン及び補完マルキンを継続して欲しい。
- ・ 補完マルキンは現行の6割を10割にして欲しい。
- ・ 肉用子牛の保証基準価格を引き上げて欲しい。

ウ 飼料

- ・ (個人の)自給飼料増産も限界。コントラクターやTMRセンターへの支援を願いたい。
- ・ 耕畜連携事業の団地化が来年からないが、酪農家の手取りにもなっているので、支援水準が下がらないようにして欲しい。
- ・ 土地改良予算が半減された。荒れた田畑に所得補償しても解決しない。土地改良は重要である。
- ・ 熊等による被害が大きい。鳥獣害対策の充実をお願いしたい。
- ・ 配合飼料価格安定制度は、一定価格以上に高騰した場合に補てんされる制度にして欲しい。

(6) 意見交換会

①場 所

帯広市

②先方出席者

十勝管内の酪農家、肉用牛農家、北海道ほか

③概 要

ア 酪農

- ・ 加工原料乳生産生産者補給金については、単価・限度とも現行以上を確保して欲しい。
- ・ チーズ振興は、コスト割れの生乳生産となるので、しっかりと手当して欲しい。
- ・ 乳製品在庫は、適正在庫を4～5か月程度とし安定供給が図られるよう、国、乳業で保管することも検討して欲しい。
- ・ 良質な生乳生産のため、記帳する事項が増えているが、商品には活かされていない。牛乳・乳製品の消費低迷の中で、国産が認

識されるような表示をお願いしたい。

- ・ 酪農ヘルパーへの支援を継続して欲しい。
- ・ 牛群検定事業を手厚くして欲しい。
- ・ 規模拡大が進む中、たい肥舎の整備が必要、支援を願いたい。
- ・ 耳標の補助も継続して欲しい。

- イ 肉用牛
- ・ マルキン及び補完マルキンを継続して欲しい。補完マルキンの6割補てんについても見直して欲しい。
 - ・ 肉用子牛生産者補給金制度を継続して欲しい。

- ウ 飼料
- ・ コントラクター、融資制度、リース事業の充実を願いたい。
 - ・ 土地改良は、自給飼料生産に重要であり、中長期的視野に立った支援をお願いしたい。

(7) 意見交換会

①場 所

釧路市

②先方出席者

釧路・根室管内の酪農家、市町村長、北海道ほか

③概要

ア 酪農

- ・ 加工原料乳生産生産者補給金の単価・限度数量は、現行水準以上をお願いしたい。
- ・ 限度数量については、需要状況などを踏まえながら、酪農生産基盤強化につながるよう適切に運用していただきたい。
- ・ 需給に合った生産が基本で、計画生産にも自主的に取り組んでいるが、乳製品の調整保管についても検討して欲しい。
- ・ 22年度の生産は、21年度並みを確保。
- ・ 牛乳・乳製品の需要拡大、食育の推進が重要である。
- ・ 酪農ヘルパーへの支援を継続して欲しい。
- ・ 家畜改良、生産基盤緊急対策の継続をお願いしたい。
- ・ 生産性向上のリース事業は、22年度予算は削減されたが、今後とも必要である。
- ・ 酪農飼料基盤拡大推進事業の継続をお願いしたい。
- ・ 酪肉近の見直しにおいては、草地の活用、放牧も取り入れた多様な経営形態を推進して欲しい。

イ 飼料

- ・ エゾシカ被害は、牧柵等では効果がなく、数万頭規模で駆除しなければならない。
- ・ 自給飼料に対する支援策を充実して欲しい。
- ・ 21年の長雨被害も排水不良の畑で大きい。基盤整備が重要であり、土地改良の予算確保を願いたい。
- ・ 中山間直接支払制度の恒久化を願いたい。

舟山農林水産大臣政務官 現地調査（山形県下）の概要

1 日 程：平成22年2月12日（金）

2 調査先：山形県

3 概 要：以下のとおり

（1）黒べこの郷粗飼料・和牛生産組合（川西町：肉用牛経営）

- ①労働力 6名（組合員5名、臨時雇用1名）
- ②飼養頭数 183頭（繁殖雌牛63頭、肥育牛120頭）
- ③生産出荷量 年間出荷頭数 114頭（肥育素牛54頭、肥育牛60頭）
肥育牛の約9割を米沢牛として出荷

（2）（株）山形ピッグファーム（山辺町：養豚経営）

- ①労働力 41名（社員）
- ②飼養頭数 21,000頭（母豚1,950、肥育豚19,050）
- ③生産出荷量 年間出荷頭数 約40,000頭

（3）意見交換会

- ①場 所 山形市
- ②先方出席者 肉用牛農家、養豚農家、酪農家、山形県
- ③概 要

- ア 肉用牛
 - ・ マルキン、補完マルキンを継続して欲しい。
 - ・ 肉用子牛生産者補給金制度を継続して欲しい。
 - ・ 肉用子牛生産者補給金制度の保証基準価格を引上げ、40万円を保証して欲しい。
 - ・ 米沢牛は肥育期間が長いため、マルキンの家族労働費の算定を見直して欲しい。
 - ・ 畜産物の消費拡大、地産地消等のための取組を国を上げて取り組んで欲しい。
- イ 養 豚
 - ・ 肉豚価格差補てん事業を継続し、全国一律に税抜き450円の保証価格で実施して欲しい。
 - ・ 養豚農家の組織を一つに統一するので、国のバックアップをお願いしたい。

- ウ 酪 農
- ・ 加工原料乳生産者補給金制度を継続して欲しい。
 - ・ 牛乳・乳製品の消費拡大に対する支援と食育に関する活動、運動をもっと展開して欲しい。
 - ・ 乳価から控除される手数料の使い方をもっと分かるようにして欲しい。
 - ・ 子牛の補給金、マルキン、補完マルキンは、酪農家の子牛販売価格等にも影響することから継続して欲しい。
 - ・ たい肥処理施設の更新に対しても補助が受けられるようにして欲しい。
- エ 飼 料
- ・ コントラ組織に対する支援をお願いしたい。(酪農)
 - ・ 肥育牛に飼料用米(ソフトグレイン)の給与試験を行っているが、飼料用米の利用が拡大するよう試験研究機関でも取り組んで欲しい。(肉用牛)
 - ・ 配合飼料価格安定制度を維持継続して欲しい。

